

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 8 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2013～2015

課題番号：25300019

研究課題名(和文) 北欧の在宅・地域ケアに繋がる生活世界アプローチの思想的基盤の解明

研究課題名(英文) Elucidation of philosophical grounds for life-world approach leading to home-care and regional-care in Nordic countries

研究代表者

浜渦 辰二 (Hamazu, Shinji)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：70218527

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,400,000円

研究成果の概要(和文)：「在宅ケア」と「地域ケア」とはともに、北欧では、日本とは異なる「在宅」と「地域」のあり方があり、また、高齢者ケア、知的障害者ケア、精神障害者ケアそれぞれに異なる時代的・行政的背景があるため、簡単に対比させることはできない。にもかかわらず、日本と比べると、北欧ではそれらが根っこのところではつながっているのではないかと思われるような点を見出してきた。本研究では、それらの思想的基盤を掘り進めるなかで、自立と連帯についての考え方、ロマン主義のつながる人間観、ノーマライゼーション、フェミニズムといった鉱脈を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：Since “home care” as well as “regional care” presuppose a different idea of “home” and “region” according to Nordic countries and Japan, and since each of “elderly care”, “care for people with intellectual disability” and “care for people with mental disorder” has a different historical and administrative background, it is difficult to compare the situation in Nordic countries and the one in Japan. However we’ve found some points in which those issues have a common root in Nordic countries. By researching the philosophical grounds we elucidated a vein such as the idea of independence and solidarity, the view of human beings, the idea of normalization and feminism.

研究分野：哲学・倫理学

キーワード：北欧ケア 在宅・地域ケア 生活世界アプローチ 思想的基盤 自立と連帯 ノーマライゼーション  
フェミニズム ロマン主義

### 1. 研究開始当初の背景

代表者は、フッサールの間主観性の現象学の研究を継続する一方で、間主観性の具体的なあり方を解き明かす一つの道としてケアをめぐる問題に取り組んできた。科学研究費補助金による共同研究「ケアの現象学の基礎と展開」(2009~2011)および「ケアの現象学の具体的展開と組織化」(2012~2014)に参加して看護研究者と哲学研究者との共同作業を試み、大阪大学「ケアの臨床哲学」研究会において様々な分野のケアの従事者・当事者・研究者・一般市民と対話を継続してきたのも、そのような一環としてであった。そうしたなかで北欧の研究者達と出会い、北欧ケア(北欧諸国に特徴的なケア観をこう呼んだ)の背景を探究すべく、共同研究「北欧ケアの実地調査に基づく理論的基礎と哲学的背景の研究」(2010~2012年度)を統括してきた。そのなかで、フッサール現象学を背景にもつ「生活世界ケア」という考え方に会おう一方で、北欧諸国では40年前に施設ケアから在宅・地域ケアへの比重の移動が始まったことや、ケアが初めから福祉と繋がっていたことなども現場視察のなかで再確認するとともに、1980年代以来のネオリベリズムの影響のなかで変化しつつある北欧諸国の姿も見て来た。しかし、現場も踏まえた研究者による理論的考察と現場の実践やそれを取り巻く制度的状況との繋がりが、単なる偶然の対応関係ではなく、ある密接な関係で繋がっていると予想されるにもかかわらず、十分明らかにできなかった。そのため、この繋がりを明らかにするという課題を、これまでの研究で見えてきたことに基づきながら更に突っ込んだ調査によって解明する必要があると考え、これまでの共同研究では薄かった分野の研究者を加えて、ここに改めて「北欧の在宅・地域ケアに繋がる生活世界アプローチの思想的基盤の解明」を申請するに至った。

### 2. 研究の目的

北欧諸国は福祉とケアの先進国として知られ、ノーマライゼーションの理念やスウェーデン・モデルの主導価値は紹介されているものの、ネオリベリズムの影響後も生き延びているその思想的・哲学的背景は十分明らかにされていない。これまでの我々の研究は、北欧諸国の福祉とケアの現場でそれがどう生かされているかを学術的に調査するなかで、一方で在宅・地域ケアの実践の浸透と、他方で生活世界アプローチという理論とに、共鳴関係を見いだしてきた。それを踏まえて、両者の関係が単なる偶然ではない繋がりを持っていることを学際的に調査・解明することが、新しい研究の課題となる。

これまでの共同研究から北欧ケアの特徴として明らかになって来たのは、第一に、医療、看護、リハビリテーション、福祉といった広い意味でのケアの分野の連携が機能し

ていること、第二に、「施設から在宅へ」という流れのなかで地域のなかに多様な住まいを作り、広い意味での在宅を中心にケアが行なわれる体制が基本になっていること、第三に、そこからケアのあり方も病院の患者中心よりも在宅の生活者中心という考えが広まっていること、第四に、それに呼応するようにして(看護学を包摂する)ケア学という新しい学問分野のなかで生活世界ケアという思想が現れていること、などであった。そして、そこから浮かんで来たのが「在宅・地域ケア」と「生活世界アプローチ」という今回申請する共同研究のキーワードであり、この新しい共同研究では、これまでに見えて来たことを、この二つのキーワードを中心により深くその基盤を解明しようと計画している。その際、同様にしてこれまでの研究のなかで浮かび上がって来た「自立」「連帯」「人間観」という三つの着眼点が、この二つのキーワードとどのように絡み合っているのかを順に解明していくことになる。

### 3. 研究の方法

本研究は、学際的な共同研究により、北欧ケアのとりわけ「在宅・地域ケア」の現場の調査を踏まえながら、「生活世界アプローチ」を代表とする哲学的ケア論との絡み合いの解明を通じて、北欧ケアの思想的基盤を明らかにすることを目的としている。そのための方法として、(1)各専門分野での各研究分担者のこれまでの研究を基礎に、(2)理論的研究者と実践的研究者の協力関係のなかで北欧ケア現場での調査ないしは北欧での学会発表を踏まえ、(3)それぞれの調査報告と情報・意見交換のための研究会および北欧あるいは国内の研究者を招へいした研究会を年に4回ほど定期的に開催し、(4)他の国々や文化との比較も考慮しながら北欧ケアの思想的基盤を明らかにし、(5)それぞれの研究成果をインターネットおよび紙媒体で公開し、(6)近い将来に研究成果をまとめた書物を刊行することを目指している。

### 4. 研究成果

基盤研究(B)「北欧ケアの実地調査に基づく理論的基盤と哲学的背景の研究」(2010年~2012年度)の成果を継承しながら、若干のメンバーを入れ替えて取り組んだ本研究は、前科研同様に、哲学、倫理学、死生学、リハビリテーション学、社会福祉学、文化人類学、教育学、看護学という多分野にわたる学際的研究により、新たに「北欧在宅・地域ケア」の問題に焦点を絞って、その思想的基盤の探求をさらに掘り進めるものであった。そこで浮かび上がってきたのは、次のような論点であった。

そもそも「在宅」という語が、日本ではこれまで家族とともに過ごしてきた「自宅」というイメージが強いが、北欧では家族との生

活スタイルも住居についての考え方も異なるので、日本と同じ感覚で「在宅ケア」という語を使えない。他方、「地域」という語も、日本では年と田舎ではかなり異なる状況にあり、同じように「地域ケア」が語れないが、北欧では、それとはまた異なる「地域」の事情があり、これまた日本と同じ感覚で「地域ケア」という語を使えない。さらに、高齢者ケア、知的障害者ケア、精神障害者ケア、それぞれの老行きで、日本でも異なる時代的・行政的背景があるが、北欧でもそう簡単に一緒に論ずるわけにはいかないところがあり、それぞれの領域によって、「在宅ケア」と「地域ケア」とが異なる文脈で論じられるところもある。

にもかかわらず、日本でのそれぞれの領域の間の壁と比べると、北欧ではそれらが根っここのところでは繋がっているのではないかと、思えるような発見もあった。本研究では、それらの思想的基盤を掘り進めるなかで、自立と連帯の両立、ロマン主義につながる生を重視する人間観、ノーマライゼーション、ケアの合理性、フェミニズムとあって鉅脈にぶつかることになった。しかし、わが国でも超高齢社会に対応する「在宅医療・介護」が押し進められるなかで、これらをどのように理念として生かすことができるかは、まだ課題として残されている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 28 件)

- 1) 浜渦辰二、生老病死と共に生きる ケアの臨床哲学にむけて、日本哲学会編『哲学』(知泉書館) 査読有、No.66、2015、45-61
- 2) 浜渦辰二、ドイツにおける事前指示書の法制化の内実 自律と依存を両立させる試み、静岡哲学会編『文化と哲学』、査読有、第 32 号、2015、1-17
- 3) 浜渦辰二、グリーフケアのために 臨床哲学からのアプローチ、グリーフケア研究所編『グリーフケア』、査読無、第 4 号、2016、1-16
- 4) Shinji Hamauzu、Intersubjectivity of Ageing -- Reading Beauvoir's The Coming of Age --、臨床哲学研究室編『臨床哲学』、査読有、第 17 号、2016、23-35
- 5) Shinji Hamauzu、Dialogue in Husserl's phenomenology and psychiatry、科研報告書『定常型社会におけるケアとそのシステム』、査読無、2016、61-70
- 6) Shinji Hamauzu、Intersubjectivity of Person-centred Care: a phenomenological perspective、科研報告書『定常型社会におけるケアとそのシステム』、査読無、2016、71-82
- 7) Hirobumi Takenouchi、Where does Environmental Crisis Lead Us? Towards Construction of Environmental Bioethics、

INTERNATIONAL CONFERENCE ON MANAGEMENT AND ECONOMICS、査読有、2015、1-15

8) 齋藤弥生、制度外介護を生み出す背景とその動向:スウェーデン・ドイツ・日本の比較から、関西社会福祉研究、査読無、2 巻、2016、1-16.

9) 齋藤弥生、社会サービスの「共同生産」パートナーとしての市民:南医療生協の取り組みを事例として、地域福祉研究、査読無、No.4(通算 No.44)、2016、13-24

10) 清永百香・是永かな子、知的障害特別支援学校高等部の教員・保護者・生徒本人に対する進路決定に関する調査 合理的配慮の視点から、高知大学教育学部研究報告、査読無、76、2016、85-98

11) 矢野川祥典・是永かな子、知的障害者の一般就労における環境設定の実態と課題 卒業生への合理的配慮の提供を目指して、高知大学教育学部研究報告、査読無、76、2016、77-84

12) 是永かな子・上田真弓、ノーマライゼーションの観点からの「社会福祉法人ファミリー高知」事業の考察、高知大学教育学部研究報告、査読無、76、2016、99-110

13) 是永かな子、ノルウェーにおける多様なニーズのある子どもの学校支援体制、高知大学学術研究報告、査読無、64、2015、42-50

14) 牟田悦子、安藤壽子、是永かな子、月森久江、木下智子、日本の教師におけるインクルーシブ教育への態度 -Moberg Attitude Scale による結果と関連要因、成蹊大学文学部紀要、査読無、51、2016、53-66

15) 齋藤美恵、「生活世界に導かれたケア」の可能性 - Karin Dahlberg による「患者中心」アプローチへの問題提起をめぐって」、文化と哲学第 32 号(静岡哲学会) 査読有、2015、77-98

16) 齋藤美恵、「スウェーデンにおけるホスピス・緩和ケアの現状」、医学哲学 医学倫理第 33 号、査読無、2015、89-90

17) 浜渦辰二、尊厳死を法制化するとは、何をすることなのか? 日本とヨーロッパ 3 国の比較考察、メタフュシカ、査読無、第 45 号、2014、1-14

18) 浜渦辰二、ホスピスの臨床哲学 日本とヨーロッパの見聞録、くらすめいと～暮らす・命・人～、査読無、Vol.6、2014、1-6

19) 竹之内裕文、死から生を考える 新「死生学入門」金沢大学講義集、宗教研究、査読無、第 88 巻 379 号、2014、186-190

20) 齋藤弥生、小地域における福祉ガバナンスを比較する ピネット調査の可能性と課題、月刊福祉、査読無、97 号、2014、20-23

21) Saito, Yayoi, "Eldrely Care Transition and Welfare State in Japan." Aulenbacher, Brigitte, Birgit., Riegraf., and Hildegard (eds.) Care im Spiegel soziologischer Diskussion (Care Set within the Context of Sociological Debate)

erscheint als Sonderband 20 der Zeitschrift (to be published Special Issue 20 of the Journal): Soziale Welt 2013, Nomos-Verlag Baden-Baden. 査読有、2014、419-434

22) 齋藤弥生、日本と北欧諸国におけるホームヘルプの比較研究 - 「ケアの合理性」概念に焦点をあてて、IDUN - 北欧研究、査読有、21号、2015、247-264

23) 是永かな子、スウェーデンにおける知的障害児・者支援制度の確立-福祉国家体制の構築を念頭に、高知大学学術研究報告、査読無、63、2014、113-123

24) 藤元静穂・是永かな子、重症心身障害児の放課後等デイサービスの現状と課題 ノーマライゼーションの視点から、高知大学学術研究報告、査読無、61、2014、125-137

25) 清永百香・是永かな子、知的障害特別支援学校の進路指導における合理的配慮、高知大学教育学部研究報告、査読無、75、2015、179-189

26) 是永かな子、インクルーシブ教育の背景要因としての地方分権の進展と教育行政の役割分担～スウェーデン・イエテボリ市の事例を中心に～、高知大学教育学部研究報告、査読無、75、2015、161-167

27) 福井栄二郎、延長する「家」 日本とスウェーデンの聞き取り調査から、島根大学法文学部紀要 社会文化論集、査読無、11巻、2015、17-36

28) 石黒 暢、日本とデンマークの介護労働環境を考える 介護労働者のストレスとその背景、IDUN 北欧研究、査読無、Vol.21、2015、281-298

〔学会発表〕(計 26 件)

1) 浜過辰二、生老病死と共に生きる ケアの臨床哲学にむけて、日本哲学会第 74 回大会シンポジウム「ケア 共に生きる」(招待講演)、2015.05.16、上智大学

2) Shinji Hamauzu, Intersubjectivity of Ageing - Reading Beauvoir's The Coming of Age (招待講演), Philosophical Seminar, 2015.09.18, University of Helsinki (Finland)

3) Shinji Hamauzu, Intersubjectivity of Person-centred Care: a phenomenological perspective, Centre for Person-Centred Care (GPCC) (招待講演), University of Göteborg (Sweden)

4) Hirohumi Takenouchi, Where does Environmental Crisis Lead Us? Towards Construction of Environmental Bioethics, 4th International Conference on Management and Economics, 2015.8.27, University of Ruhuna, Sri Lanka (招待講演)

5) 齋藤弥生・佐藤桃子、協同組合医療・介護の可能性についての研究：活動展開の調査分析から社会的価値の評価測定づくりに向けて、日本地域福祉学会第 29 回大会、

2015.6.20-21、東北福祉大学(仙台)

6) Pestoff, V., Saito, Y., and Vamstad, J. Co-production in Health in Japan 5th EMES International Conference on Social Enterprise. 2015.6.30-7.3., Helsinki Deaconess Institute (Helsinki, Finland)

7) Pestoff, V., Saito, Y., and Vamstad, J. Co-production in Health and Elder Care. Democracy Conference: Challenge of Public Service & Community Solutions. 2015.12.3-12.5. Arizona State Univ. (Tempe, US)

8) Ishiguro, N., and Saito, Y. Care Relations in Eldercare in Japan and Denmark. 2015 Annual ESPAnet Conference: The Lost and the New Worlds of Welfare. 2015.9.3-5. University of Southern Denmark (Odense, Denmark).

9) Theobald, H., Saito, Y., and Ishiguro, N. Comparative Eldercare from Care Workers Perspective: Germany, Japan and Sweden. Eldercare Study Workshop in Vechta. 2015.9.7., University of Vechta (Vechta, Germany)

9) 齋藤弥生、地方都市および過疎地域における地域包括ケアの仕組みづくり：北欧モデルとの対比、日本学術会議社会学委員会・経済学委員会合同「包摂的社会政策に関する多角的検討」分科会シンポジウム、2015.5.16、福井市地域交流プラザ(福井)

10) 備酒伸彦、さまざまなケア場面での「在宅・地域ケア」への動きから考える、第 41 回日本保健医療社会学会、大会テーマ「生活モデルへ転換」ラウンドテーブル、2015.05.17、首都大学東京

11) 備酒伸彦、これからの訪問リハビリテーションの課題、第 34 回関東甲信越理学療法士学会、2015.09.12、アピオ甲府(山梨県中巨摩郡昭和町)

12) 是永かな子、学校と地域の連携、日本発達障害学会、2015.7.5、東京学芸大学(招待講演)

13) 是永かな子、スウェーデンとフィンランドにおけるインクルーシブ教育の実践、北海道特別支援教育学会、2015.7.12、北海道教育大学(招待講演)

14) 是永かな子、ノルウェーの教育と福祉における学齢児支援システムーノルウェーにおける多様なニーズのある子どもの学校支援体制、日本 SNE 学会、2015.10.18、京都教育大学

15) 牟田悦子、安藤壽子、是永かな子、月森久江、木下智子、日本の教師におけるインクルーシブ教育への態度 - 北欧との比較 - その 1 研究の枠組みと日本における Moberg Attitude Scale の主な結果 -、日本 LD 学会、2015.10.11、福岡国際会議場

16) Taisei Yamamoto, The Effects of Basic Body Awareness Therapy for the People with Schizophrenia on Sense of Agency and

Motor control, World Confederation for Physical Therapy Congress 17th International Congress, 2015.5.1-4, Singapore

17) 齋藤美恵、「在宅」という場所が意味するもの-看護が行われる場所としての「在宅」に焦点をあてて、第34回日本医学哲学倫理学大会 大会テーマ「わたしの病い、あなたの病い~病いの“当事者性”を考える~」、2015.11.7. 新潟大学医学部保健学科

18) Shinji Hamauzu, Caring and Phenomenology-From Husserl's Phenomenology of Intersubjectivity(招待講演), Kairos and Topos: Phenomenology and the Celebration of Thinking 6th International Conference of P.E.A.CE (Phenomenology for East-Asian Circle) cum 8th SPA (Symposia Phenomenologica Asistica), 2014.5.23., Yasumoto International Academic Park, The Chinese University of Hong Kong.

19) Shinji Hamauzu, Dementia as a sickness of interpersonal relationship(招待講演), International conference in Norrköping "Life with Dementia: Relations", 2014.10.15, Centre for Dementia Research, Linköping University, Norrköping, Sweden.

20) 浜渦辰二、ドイツにおける事前指示書の法制化の内実 自律と依存を両立させる試み、静岡大学哲学会第37回大会シンポジウム「欧州における看取りと自己決定」、2014.11.03、静岡大学。

21) Shinji Hamauzu, A Comparative Inquiry into "Advance Decisions" in Japan, Germany and the UK (招待講演), Medical Humanities Seminar Series Spring 2015, The Body: Health, Wellbeing and Vulnerability, 2015.02.18, University of Hull.

22) Hirobumi Takenouchi, How Small Business become Entrepreneurial? A case study of Shizuoka, Japan, Conference on Sri Lanka Japan Collaborative Research, 2014.12.15, Earl's Regency Hotel (Kandy in Sri Lanka)

23) 是永かな子、インクルーシブ教育の背景要因としての地方分権の進展と教育行政の役割分担~スウェーデン・イエーテボリ市の事例を中心に~日本LD学会、2014.11.24、大阪国際会議場

24) 是永かな子、フィンランドにおけるインクルーシブ教育の特徴と近年の改革動向、日本SNE学会、2014.10.18、茨城大学

25) 是永かな子、スウェーデンにおける知的障害児・者支援制度の確立-福祉国家体制の構築を念頭に-日本特殊教育学会、2014.9.21、高知大学

25) Saito, Yayoi, Nobu Ishiguro, Yoko Yoshioka, Momoko Sato & Marta Szebehely,

Comparative Study of Elder Care Work in Japan and Sweden, 12th Annual ESPAnet Conference, 2014.9.5. HiOA, Oslo, Norway

26) Theobald, Hildegard, Yayoi Saito & Nobu Ishiguro, Comparative Eldercare from Care Workers Perspective: Germany, Japan and Sweden (招待講演) Seminar on The Eldercare in a Comparative Perspective, 2014.10.18, Osaka University Nakanoshima Center

〔図書〕(計7件)

1) 齋藤弥生(NHK テキスト社会福祉セミナー-2015年8~11月号). NHK出版. 「高齢社会と日本の介護」「日本の介護保険制度」「在宅医療と終末期ケアを考える」「福祉機器と介護ロボットの可能性」『NHK テキスト社会福祉セミナー-2015年8~11月号』. 2015年. 111

2) 齋藤弥生(岡澤憲英・齋藤弥生編) 彩流社、「第三章スウェーデンの高齢者環境」『スウェーデン・モデル：グローバル化・シジョン・揺らぎ・挑戦』. 2016, 299

3) 福井栄二郎他15名, 『多配列思考の人類学 差異と類似を読み解く』(白川千尋・石森大知・久保忠行編) 風響社, 387頁, 2016

4) 是永かな子(分担執筆)、彩流社、第六章スウェーデンの障害者環境、『スウェーデンモデル』. 2016, 163-188.

5) 山本大誠(他39人共著) 文光堂、実学としての理学療法概観、2015, 442

6) Saito, Yayoi, "Care Providers in Japan: Before and After the Long-Term Care Insurance." Campbell, John Creighton., Edvardsen, Unni., Midford, Paul., and Yayoi Saito (eds.) Eldercare Policies in Japan and Scandinavia: Aging Societies East and West. pp 51-69. 2014. (共編著書)

7) 齋藤弥生「第24章 高齢者介護の比較政治経済学 - ダイバーシティ・ウェルフェア・マネジメントへの挑戦とその原点」岡澤憲英編『北欧学のフロンティア：その成果と可能性』、ミネルヴァ書房、388 - 397、2015 (著書・分担執筆)

〔産業財産権〕  
出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：

発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

浜渦 辰二 (HAMAUZU SHINJI)  
大阪大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号：70218527

### (2) 研究分担者

竹之内 裕文 (TAKENOUCHI HIROBUMI)  
静岡大学・創造科学技術大学院・教授  
研究者番号：90374876

中河 豊 (NAKAGAWA YUTAKA)  
名古屋芸術大学・音楽学部・教授  
研究者番号：20198047

備酒 伸彦 (BISHU NOBUHIKO)  
神戸学院大学・医療福祉学部・教授  
研究者番号：80411883

山井(斉藤) 弥生 (YAMAI/SAITO YAYOI)  
大阪大学・大学院人間科学研究科・教授  
研究者番号：40263347

石黒 暢 (ISHIGURO NOBU)  
大阪大学・大学院言語文化研究科・准教授  
研究者番号：20273740

福井 栄二郎 (FUKUI EIJIRO)  
島根大学・法文学部・准教授  
研究者番号：10533284

是永 かな子 (KORENAGA KANAKO)  
高知大学・人部社会・教育科学系・准教授  
研究者番号：90380302

山本 大誠 (YAMAMOTO TAISEI)  
神戸学院大学・総合リハビリテーション学  
部・講師

研究者番号：10411886

齋藤 美恵 (SAITO MIE)  
西武文理大学・看護学部・講師  
研究者番号：80648113

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：